

2019年7月8日

報道関係各位

EFPIA Japan (欧州製薬団体連合会)

## EFPIA Japan、第1回 PASE AWARD 大賞受賞患者団体講演会を開催

がん治療と仕事の両立で「生活の質」向上が重要

「CSRプロジェクト」、EFPIA 加盟社向けに講演

欧州製薬団体連合会(以下、EFPIA Japan)は、2019年2月25日(月)、がん患者さんの就労問題に取り組む一般社団法人「CSRプロジェクト」(事務局:東京都千代田区)を招き、EFPIA 加盟社向け講演会を開催しました。EFPIA 加盟社からは約70人が参加し、がん治療と仕事の両立の実現に向けて学びました。

EFPIA Japanは2017年、日本の患者さんがより良い医薬品へのアクセスを維持するために自発的に活動する患者団体を支援し、患者さん中心の医療環境の実現を目指す助成金プログラム「PASE AWARD」(PASE: Patient Advocacy Support by EFPIA Japan)を設立しました。CSRプロジェクト(Cancer Survivors Recruiting Project)は、がん患者さんの治療と仕事の両立を実現するための提案が高く評価され、第1回(2017年)と第2回(2018年)のPASE AWARDで連続して大賞を受賞しています。

今回、CSRプロジェクト代表理事の桜井なおみさんは以下の内容を講演されました。

### 1. 第1回 PASE AWARD 大賞助成金を活用して取りまとめた『がん罹患と就労白書』の紹介。

治療に伴う精神的な負担や副作用が、多くのがん患者さんの就労継続を困難にしている現状を指摘しました。

### 2. 第2回 PASE 大賞受賞の「副作用マネジメントにおけるアンメット・メディカル・ニーズの量的調査」の概要。

同調査は、前回受賞調査をさらに深め、がん治療での副作用管理の現状を把握して患者さんの満たされないニーズ(アンメット・メディカル・ニーズ)を明らかにすることを目的としており、調査結果を海外のがん関連学会で報告するほか、政策提言活動にも役立てたい考えを示しました。

### 3. がん治療における「生活の質」(QoL=Quality of Life)の重要性。

がんと診断された患者さんの多くが早期に離職している現状に懸念を示し、企業や行政が患者さんの状況に応じた柔軟な対応を取ることで就労を継続できる可能性があると言いました。がん治療について、治療効果(生存期間の延長など)だけでなく、「生活の質」(QoL=Quality of Life)を評価することも重要だと話しました。

桜井さんは、2019年4月から日本で本格導入された医薬品等に対する費用対効果評価制度にも触れ、現行の制度が「患者視点が抜けており、非常に残念」との懸念を示されました。他国の事例として英国での費用対効果評価を挙げ、患者さんが治療効果や副作用、治療満足度などを直接報告する「患者報告アウトカム」(PRO=Patient Reported Outcome)が評価対象になっていると説明しました。さらに、日本でも医薬品がもたらすイノベーションを評

価する方法の一つとして PRO が有用であるとして、PRO を通じて収集した情報に基づく QoL 向上や疾患の重症化予防、医療の効率化に期待を示しました。

EFPIA Japan は、患者さんの健康と QoL の向上をもたらす革新的な医薬品を日本へ届けるだけでなく、患者団体や政府、政策立案者など医療制度を形成する様々なステークホルダーと協業し、「患者さん中心の医療」の実現を目指す建設的な議論や提言を行って参ります。患者さん視点で医薬品の価値をさらに生み出すため、EFPIA は今後も患者さんや患者支援団体などから学ぶ機会を重視します。

###

### **EFPIA Japan 患者団体支援プログラム「PASE」について**

「PASE (Patient Advocacy Support by EFPIA Japan)」は、2017 年に新設された EFPIA Japan による患者団体支援プロジェクトです。PASE は日本の患者団体活動の活性化を促し、患者さんの声が適切に医療制度に反映されることで、患者さんを取り巻く医療環境がより良いものに発展していくことを支援していきます。PASE の一環として、EFPIA Japan は、PASE AWARD を創設し、患者の権利を擁護する活動の発展に寄与する団体の活動に毎年助成金を拠出しています。また、PASE は、患者団体との情報交換や患者団体への啓発機会の提供などを通じて、様々な疾患領域において活躍する日本の患者団体との連携を強化していきます。

### **PASE AWARD について**

PASE AWARD は、EFPIA Japan の患者中心志向をより直接的に患者団体に還元し、日本の患者アドボカシーの発展に寄与するために、2017 年に設立されました。これまでに 2 回開催され、「日本全体の医療への貢献」、「疾患自体や関連する対応策の啓発有無」、「過去の活動実績と比較して、提案されている活動の新規性」、「計画の実行可能性」、「提案内容内で占める PASE 助成金の重要度」の 5 つの評価項目に基づき応募団体の活動を選考し、第 1 回では応募 29 団体、第 2 回では応募 17 団体から選出された大賞各 2 団体と健闘賞各 3 団体に対して、総額 230 万円を提供しました。詳細はリンクをご参照ください。

第 1 回 : [http://efpia.jp/link/JP\\_171012\\_PASE\\_ResultAnnouncement\\_FIN.pdf](http://efpia.jp/link/JP_171012_PASE_ResultAnnouncement_FIN.pdf)

第 2 回 : [http://efpia.jp/link/181015\\_2nd\\_PASE\\_AWARD.pdf](http://efpia.jp/link/181015_2nd_PASE_AWARD.pdf)

### **CSR (Cancer Survivors Recruiting) プロジェクトについて**

東大医療政策人材養成講座 4 期生の桜井なおみさん (NPO 法人 HOPE★プロジェクト) を主任研究員とする「がん患者の就労と雇用に関する研究」を基盤に、2007 年 9 月より活動を開始しました。日本ではまだ調査・研究が十分に進んでいない就労世代がん患者における「就労・雇用の実態」を明らかにするため、調査の実施や提言書のとりまとめ、書籍などを通じ、政策提言を行っています。2011 年 3 月に一般社団法人化し、組織的、継続的に問題解決に取り組んでいます。

### **欧州製薬団体連合会 (EFPIA) Japan について**

2002 年 4 月に設立された EFPIA Japan には、日本で事業展開している欧州の研究開発志向の製薬企業 23 社が加盟しています。2017 年の加盟各社の総売上高は、日本の製薬市場の売上の約 22%を占めています。

EFPIA Japan の使命は、“革新的な医薬品・ワクチンの早期導入を通じて、日本の医療と患者さんに貢献する” ことです。EFPIA Japan は日本の医療向上に向けて政策決定者との対話を強化することを目指しています。

### **欧州製薬団体連合会 EFPIA (The European Federation of Pharmaceutical Industries and Associations) について**

ベルギーの首都ブリュッセルに本部を置く EFPIA は、欧州で事業を展開する製薬業界の団体です。EFPIA に直接加盟する国の団体は 36 団体、主要な医薬品企業は 40 社ですが、EFPIA は世界中の人々のクオリティ・オブ・ライフを改善する新薬の開発・提供に専念する 1,900 社の声も代弁しています。

詳細は下記をご参照ください。

<http://efpia.jp/> (EFPIA Japan)

<http://www.efpia.eu> (EFPIA)